

中期経営計画の進捗に関するご報告

当社は、2021年5月に2022年3月期から2024年3月期までの3ヶ年の中期経営計画を公表いたしました。中期経営計画1年目を終えて、その進捗及び昨今の事業環境を踏まえ戦略のアップデートを行いましたので、数値目標を含む同計画の見直し結果をご報告いたします。

1. 経営環境

これまで、日本国内、海外ともに総じて堅調な景気に支えられ、需要は概ね拡大基調にありました。

一方、長期的には日本の人口減少に伴い、「需要総量」、「労働力」の漸減が予想され、国内の経済成長を下押しするリスクがあります。

また、短・中期的には、社会的な重要課題である環境負荷低減、コロナ禍の長期化や地政学リスクの高まり等、経営環境が想像以上のスピードで変化する中での臨機応変な対応とともに堅固な経営態勢の強化が求められています。

2. 経営の方向性

当社グループは、小容量の液体包装分野において利用される包装機械「液体充填機DANGAN」シリーズと、最適な包装性能を実現する高機能包装フィルムの双方を提供する唯一のメーカーとして、これまで様々な液体包装における経験と知見を蓄積してきました。

上述の経営環境を踏まえ、長期的視点から、経営リスクをコントロールしつつ持続的成長を実現する経営を目指し、「液体包装フィルム」「液体充填機械」「液体包装知見」をさらに融合・進化させ、お客様のニーズ及び社会のニーズに応じてまいります。

ビジョン

フィルムの製造販売にとどまらず
液体包装のプロフェッショナルとして、
刻々変化するお客様のあらゆる包装にかかわる課題を解決する
『総合エンジニアリングカンパニー』(注)を目指します。

(注)フィルムエンジニアリング・マシナリーエンジニアリング・プロセスエンジニアリングの総体

3. 中期経営計画1年目(2022年3月期)の振り返り

新中期経営計画「Shifting to the new Lamick and creating our new value」の初年度である2022年3月期は、コロナ禍での内食・中食関連の需要継続や原材料価格の低位推移等の外部要因に加え、販売戦略の見直しにより高付加価値の液体小袋売上の増加、同時に固定費抑制に努めた結果、売上高及び営業利益が計画を上回りました。

(億円)	売上高	売上高の内訳			営業利益	営業利益率
		国内	海外	海外比率		
当初計画	259	215	44	17.0%	16	6.3%
実績	281	222	59	21.0%	29	10.7%
達成率	108.5%	103.3%	134.1%	123.5%	181.3%	169.8%

■国内事業

利益額・利益率の最大化

コロナ禍の長期化により中食・内食等による小袋包装需要の継続を追い風に、当社のコアカテゴリーである液体小袋の拡大と利益追求に注力した結果、売上高・営業利益率の増加につながりました。

■海外事業

新市場開拓

コロナ禍での衛生面への意識の高まりから、従来の日系企業に加え、ローカル企業からも従来のボトル調味料から小袋化へのニーズの高まりに即応した結果、売上高は漸増、海外売上比率も 2 割程度まで拡大し、海外における事業基盤構築を進めることができました。

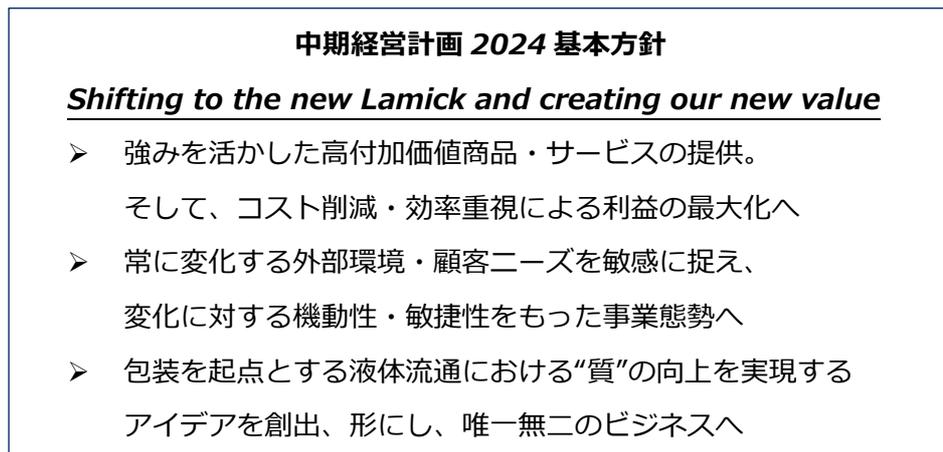
■新領域の立ち上げ

液体包装事業の新たな価値創造

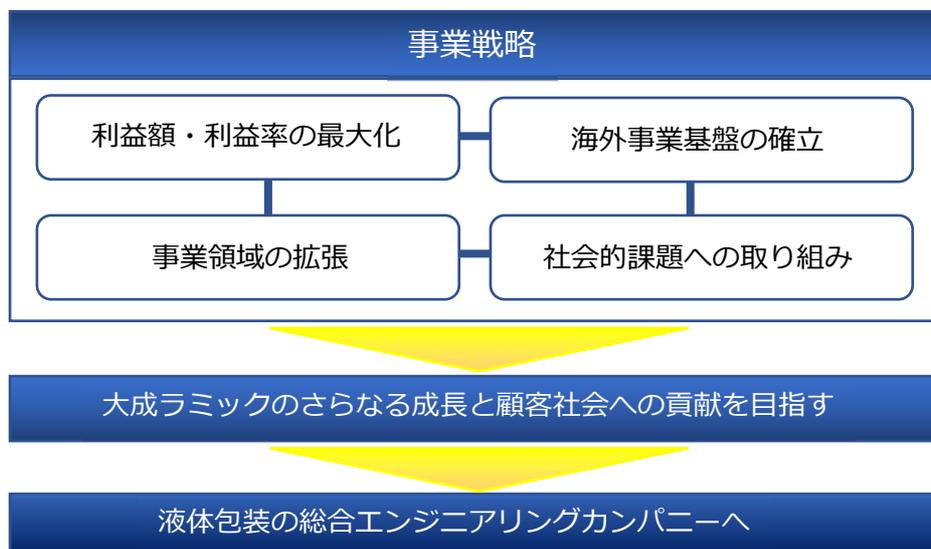
当社が保有する液体包装の知見をもとに、「環境負荷低減」「生産性向上」等お客様及び社会のニーズに応える新たな提供価値の研究・開発を進捗させることができました。

4. 中期経営計画 2024 の基本方針

予測困難な環境変化に対して改めて中期経営計画で策定する施策を再確認し、様々なりスクに備え 2nd phase として取り組んでまいります。



5. 新・中期経営計画 2024 の概要



■国内事業

利益額・利益率の最大化の継続

地政学リスクの高まりを受け、足元では原材料の価格高騰や供給不安が懸念されています。このような状況下で今後も利益を確保するため、強みを生かした付加価値の高い製品やサービスの提供を追求するとともに、販売価格の継続的な見直し及び徹底したコストダウンに取り組んでまいります。中長期では、上記施策に加え、製品の安定供給維持や生産効率向上のためのあらゆる戦略を推進してまいります。

■海外事業

海外事業基盤の確立

コロナ禍による物流混乱や輸送費高騰の影響を受け、顕在化した製品の安定供給に対する課題に対応すべくグローバルサプライチェーンの最適化に取り組むとともに、各地域特有のローカルニーズに合わせた戦略を策定・実行することで、量と質を兼備した事業の確立を進めてまいります。

■事業領域の拡張

液体包装事業の新たな価値創造～唯一無二のビジネスへ～

これまで研究・開発を進めてきた新たな価値づくりを発展させ、お客様の生産性向上へ貢献する液体包装ソリューションの構築を進めてまいりましたが、今後は運用テスト及び評価フェーズに移行し、実用化に向けて取り組んでまいります。

■社会的課題への取り組み

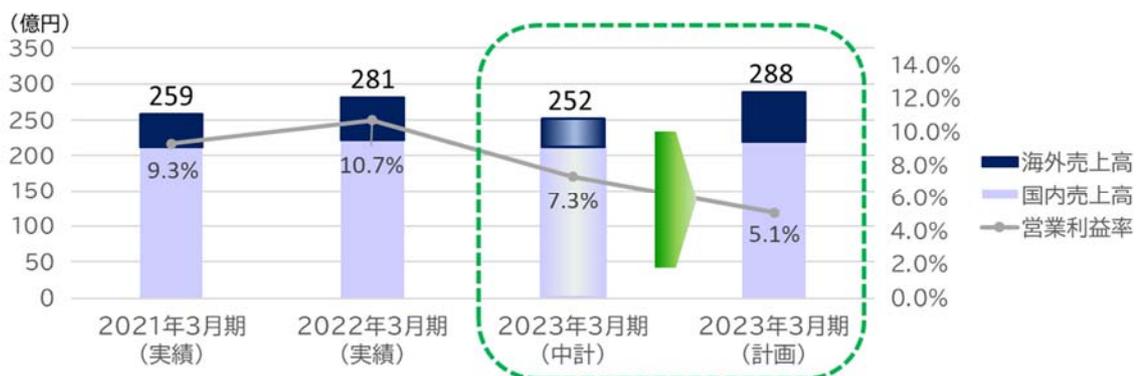
持続可能な社会の実現へチャレンジ

フィルム・充填機械の両方を提供する唯一の企業として、新規材料による環境対応フィルムの開発と充填機械との親和性を課題とし、「環境負荷低減」と「生産性・機能性」を両立するソリューション開発を推進してまいります。

また、既に取り組んでおります輸送時のモーダルシフト推進や太陽光発電等に加え、当社グループの事業活動におけるCO₂削減への取り組みの継続や、DX等による多様な切り口で業務効率化を図り生産性向上への取り組みも推進してまいります。

▼計数計画（連結ベース）

昨今の事業環境を踏まえ、2021年5月に公表した計数計画から2023年3月期の計画を見直しております。



6. 株主還元方針

当社は安定的な利益還元を目指しております。

中長期的な内部留保を維持しつつ、将来の大成ラミックグループ全体のさらなる発展に向けて投資・強化を図りながら安定配当を継続していくことを基本方針とします。

(本資料に関する注意事項)

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでいるため、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。潜在的なリスクや不確実性等の業績に影響を与える要因については、経済情勢、需要動向、為替変動、原材料価格の変動等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以上